



富岡 量秀  
(大谷大学短期大学部教授)

③子どもの育ちと学びへの願い(1)

今月6日は、近代親鸞の生誕記念日。数学の祖と呼ばれる大谷大学初代学長として真宗大谷派の振興に尽力された清沢満之師の祥月命日にあたる。師が生涯をかけて明らかにされた精神は、現在の同朋会運動の礎となつて今日に至つている。今月号は、浩々洞霧祥の地と知られる永道会館(文京区本郷)において開催される「清沢満之研究交流会」(主催・親鸞仏教センター)の企画や研究発表に尽力されてきた名和達喜氏(教学研究所研究员)による「哲学者との対話」と題して寄稿していただいた。



ありし日の清沢満之師

前回、子どもの就学前から小学校、中学校そして高等学校までの「学びの地図・道筋」として、「知識・技能・思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」といった3つの柱について概略を挙げました。その中でも特に「学びに向かう力・人間性等」という豊かな情意・態度等に関することは、生涯にわたる人格形成の中核である「学びに向かう力・人間性等」に着目し、少し具体的なことは、この「学びに向かう力・人間性等」に着目し、少し具体的な教育を取り上げてみたいと思いま

す。そこで新しい幼稚園教育要領には、日本の幼稚教育として学校教

育が何をめざしているかが、書かれている

からです。それは今回の改訂で新たに設けられた「前文」に明確にされています。こ

の「前文」は、今までの幼稚園教育要領には、ありませんでした。そして保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領にもありません。

新しい幼稚園教育要領の「前文」には、

教育の目標として、教育基本法から次の5

り、新しい目標ではありません。どうい

うに感じてしまい、つま

</